

# はじめに

地元町内会、商店街、まちづくりクラブ、かわさき大師観光ガイドの会（現NPO法人かわさき歴史ガイド協会）の参加のもと、東海道川崎宿を活かした地域活性化のための市民提案書「東海道川崎宿 2023 いきいき作戦（以下、「いきいき作戦）」をまとめましてから、8年が経過しました。

この8年間の間に、ラゾーナ川崎のオープン、川崎駅東口の再整備など川崎の玄関口にふさわしい整理がされるとともに、かわさき大師観光ガイドの会がNPO法人化もいたしました。また、平成25年度には、「（仮称）東海道まちづくり文化・交流拠点施設（以下「（仮称）文化交流拠点施設）」の完成が予定されており、川崎宿周辺を取り巻く環境は大きな転換点を迎えつつあります。



一方、東海道川崎宿を活かした地域活性化方策検討委員会は、「いきいき作戦」の中の提案の実現に向け、東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織（通称：東海道川崎宿 2023）と名前を変え、東海道川崎宿総合案内板や史跡解説板、シャッター浮世絵ギャラリーの整備などのハード整備や閻魔寺寄席、東海道川崎宿 2023 フェスティバルの開催などのイベントの開催、連連つながりかわさきや東海道川崎宿新春ふれあい広場への参加などの他団体との連携など様々な取組みを行ってきました。

そうした取組の成果を見直し、また、周辺の環境の変化に対応するため「いきいき作戦」の第3巻の発行を行うことになりました。

第3巻の発行にあたっては、①行政の要望ではなく、区民として、あるいは所属する団体として出来ることを提案する。②短期（3年以内）に出来ることと、長期（5年以上）に向けて実施すべきことを分けて提案する。③新規提案とあわせ、「いきいき作戦」の提案に対し優先順位をつけること。以上の3つの柱を踏まえながら検討を実施しました。まとめるにあたっては、ワークショップを開催するなど、様々な立場から意見をもらえるよう工夫しました。

今後は、新しい市民提案書の提案を実現させるため、地域と行政との協働で出来ることから少しずつ動いていきたいと考えます。

また、これからのまちの担い手である若い人達が、住みたい、住んで良かったと思えるまちにするため、若い人々の参加とアイデアを大胆に取り入れる必要があると思います。まちは動いています。人々の心の動きが取り入れられたまちにするため、若者の参加を願っています。

最後に、新しい提案書の発行にあたりまして、ご協力くださいました関係者の皆様に深くお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織

代表 金岩 勇夫